

ふくしまっぴい人。



おおたけ

大竹

やすひろ

康博さん

社会福祉法人木犀会

ひまわり館・ひまわりキッズ館

木犀会くらしサポートセンター



社会福祉法人木犀会は、県内各地で障がい者サービス事業・高齢者サービス事業を展開しています。笠間市にある、ひまわり館・ひまわりキッズ館、木犀会くらしサポートセンターも同法人が運営する障がい者福祉施設です。ひまわり館は18歳から65歳までの身体・知的・精神、高次脳機能障がいの方の生活介護通所施設で、自立および充実した生活の支援を行なっています。併設するひまわりキッズ館は、特別支援学校等に通う小学1年生から高校3年生が、放課後や長期休み期間中に利用されている放課後等デイサービス事業所です。くらしサポートセンターは、主に障がいのある方の相談に応じ、福祉サービスのモニタリング支援や利用計画の作成を行う相談事業所です。大竹康博さんは、ひまわり館・ひまわりキッズ館の管理者、木犀会くらしサポートセンターのセンター長兼相談支援専門員として障が

い福祉に取り組んでいます。

その他、大竹さんは、法人外の仕事として、笠間市地域自立支援協議会こども部会部会長、笠間市福祉施設協働事業連絡協議会会長など地域福祉の発展を担う機関の役職も兼任されています。

きっかけは障害者施設でのボランティア活動

福祉の仕事に就いて今年23年目になる大竹さんが、この仕事を始めるきっかけとなったのは、障がい者入所施設でのボランティア活動。専門学校のスポーツ学科で、スポーツジムのインストラクターを目指していた当時、ボランティアとして初めて障がいを持つ方と関わりました。「自分と違う、上手く言葉で表現することが難しい方や身体に障がいがある人のことが身近にいなかったので、そ

その人の人生や心に寄り添って 歩んでいくことが魅力。



の様な方がいることに衝撃を受けました。障がいを持っていてもちゃんと関わることができるということが、一番の驚きでした。一緒に何かができることが嬉しくて、この仕事に魅力を感じ、どっぷりはまってしまいました」と振り返ります。



涙を流すほど、嬉しいことがある仕事

専門学校卒業後に障がい者施設に就職、現在のひまわり館は入職して現在9年目となります。仕事を始めた当初は、利用者に関わり日常の支援をすることが仕事でした。現場で経験を積みながら、介護福祉士・サービス管理責任者などの福祉の資格を取得していきました。

仕事のやりがいを感じるときは、「管理職という立場上、職員が利用者様から感謝された時や、私自身も利用者様の希望する生活のプランニングでお礼を言われた時や利用者様と一緒に何かを達成して喜べた時です。例えばスポーツ大会とか、目標に向けて努力をして、辛い時や苦しい時を乗り越えてメダルをもらって、『がんばったよ』と抱きついてくれるのが本当に嬉しい。涙を流すほど嬉しいことがあるのが、やりがいにつながっています」と話します。仕事の辛さや大変さは、利用者様の思いを上手くくみ取れなかった時に感じるそうです。悲しい思いや辛い思いをさせてしまわないように心がけていると言います。辛い気持ちになったり、疲れた時のリフレッシュの方法は、小学生の時から続けているバレーボール、そしてマラソン。「担当だった利用者の方がマラソンが大好きで、ずっとマラソンを続けていきたいと言っていたのですが、亡くなりました。その方との約束で、マラソンを続けています。その方の分まで自分が生き、走り続けます」と思いを語ってくれました。

人の人生に寄り添うのが福祉の仕事

福祉の仕事の魅力をたずねると、「人の人生に寄

り添うことのできる仕事だと思う。他人である自分が、その人の人生や心に寄り添って歩んでいくことが魅力の一つだし、感謝されることを喜びに変えられる仕事です」という答えでした。大竹さんの今後の目標は、「ありがとうと沢山言いたいし、ありがとうと沢山言っていたきたい、そのために日々努力と経験を重ね、『ここにいれば安心だね』と言ってもらえる場所づくりと人づくりをしたい」と話されていました。



福祉の仕事を目指す方へのメッセージ

福祉の仕事に向いている人は、人見知りの人だと言う大竹さん。「人対人の仕事なので、人見知りだから近づけないとか、関われないと思うかもしれませんが、利用者様から寄ってきてくれたりきっかけをいただけます。利用者の方から『おはようございます』とか『何してるの』と声をかけてくれます。仕事をするうちに自分に自信がつくし、人に感謝しながら一緒に成長できます。この仕事は、人見知りだったり、自信のない人は適任だと思います。とりあえずここに来てみてほしい、きっと大丈夫だからと言いたいです。」と、自分も人見知りだったという大竹さんからのメッセージです。「福祉の仕事をしようか悩んでいる人は、とりあえずやってみよう、ドアをノックしてくれれば、あとは任せてほしい。」と背中を押してくれる“きらり」と光る先輩です。

